令和6年度 学校園評価シート

1 教育目標	「心豊かに学び合い 育ちあうこどもの育成」
2 基本方針	身近な自然や様々な人と触れ合う中で感動体験を重ねながら、豊かな感性と人を大切にできる心を育てる。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育を行い、幼児の主体性と友達との協同的な学びが育まれる環境を構成する。
3 指導目標	(1)心も体も健やかで明るい子 (2)思いやりがあり 心の優しい子 (3)様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 (4)自分の思いを伝え 素直に表現する子 (5)感じる心 考える力がある

A ; 十分成果があった B ; 現状でよい C ; 一部改善要する D ; 改善を要する

評価項目	評価の観点	園評価	◎成果 ●課題 ※改善策	評議員評価
教育目標	幼児の発達に応じた経験や体験が得られるような援助や環境構成が計画的に行われていたか。 指導計画案を通して、計画的に・組織的に目標の具現化が図られているか。	B	◎心豊かに表現し、主体的に遊ぶ環境構成や援助について、個々の発達や特性を共有し、幼児の興味関心を活かした遊びを大切に保育に取り組むことができた。 話し合いを活かした保育の計画や実践に取り組みしたが、振り返りや環境の再構成が不十分で、遊びに最適な時期や季節を逃してしまうこともあった。 ※振り返り時にねらいや学び、経験させたい内容など、教師が思いや願いをもって、環境の再構成のポイントを明確にし、明日につなげていく。	B
保育活動・行事	幼児の内面理解に努め、教師の関わりや援助は適切であったか。 自然体験や友達との交流を通して、豊かな感性や社会性を培う心の教育が出来ているか。 各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意工夫され、幼児にとってふさわしい内容であったか。	B	◎思いを伝える、諦めずに取り組む大切さを伝え続けたことで、友達と一緒に過ごす嬉しさや自信をもてるようになった。また、クラスや園全体で、同じ目標に向かって取り組む楽しさや大切さ、達成感を味わうと、仲間意識が深まり、心の成長を感じられた。 ●幼児の遊びの過程や姿から内面を読み取り、必要な援助の見極めが難しかった。また、異年齢で同じ場や世界観と一緒に遊ぶことが少なく、互いに親しみや憧れの気持ちをもつような交流があまりできなかった。 ※多くの研修、日々の話し合いを通して、教育の質や技術、感性をより高める必要がある。また、全ての教師が全ての幼児の保育に取り組む姿勢をより意識し、異年齢で自然と関われるようにそれぞれの遊びや活動の進捗状況を理解し、環境の再構成を図っていく。 ◎行事では見る視点やお願いを事前に伝えたことで、保護者の方も協力し温かい雰囲気の中開催できた。幼児も担任も安心して取り組み、自信につながった。 ●気候の変化に伴い、戸外での遊びが制限される日も多くなっている。園児数の減少により、行事の持ち方や内容を考えていく。 ※七夕や水難訓練と重ならないような音楽会の時期と暑さを考慮した運動会の時期を再検討する。	A
運営・組織と研修・研究	教職員が互いに努力を認め合い、励まし合える明るい職場づくりに努めているか。 安全や防災に関する組織を作り常に危機管理運営意識を持って向上に努めているか。 時代の流れや社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、積極的に園内外・研修会に参加し、自らの資質向上に努めているか。	A	◎困りごとや保育の方向性を共有し、解決方法を探ることのできる風通しの良い職場環境になっている。 ●職務分担では、一人一人が自分の担当に責任をもって取り組んでいるが、先輩職員に負担がやや多い。 ※先輩職員が継続的に指導しながら、若手教諭の自立につなげたい。 ◎安全・防災に関するマニュアルを必要に応じて見直した。また、県警ホットラインを使用した警察署との実践的な防犯訓練を行い、マニュアルでは対応できない職員同士の連携の必要性や現実的な防犯意識をもつことができた。 ※少数の職員で運営しているので、様々な想定での防災・防犯訓練をし、対応力を身につけたい。 ◎様々な研修を通し、学びや気づきを職員間で共有できた。特に特別支援教育では、幼稚園教育からの学びの連続性を意識し、教育の質を高めることが小学校以降の「自立活動」に繋がると理解できた。 ※幼児保育、障がい児保育だけでなく、乳児保育についてもさらに学び、質の高い保育の提供を目指したい。	A
家庭・地域との連携	子育ての不安や悩みを受け止め、地域の子育てセンターとしての役割を果たしているか。	B	◎保護者に幼児の遊びの楽しさや学びにつながる姿やその成長を伝えた。また、制作や体操など親子で触れ合う楽しさや大切さが実感できる場を設け、体験活動の楽しさを共有できた。地域の団体主催の子育ての講演会でのグループ討議を通して、保護者同士気軽に話し合える関係づくりや子育ての楽しさも共有できた。 ※目に見えやすい参観や写真、パワーポイント等でも、幼児の学びや園の方針について伝える機会を作っていく。 ●こどもの人間関係や子育ての悩みなど個別に相談を受ける中で、保護者自身が人間関係に悩んでいるなど、体調や精神面に不安があることも見えてきた。 ※各家庭と連携を密にし、幼児のために必要なことやできることを一緒に考えていく。	B

学校園関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 運動会や生活発表会で幼児の気持ちが落ち着くまでみんなが待ってあげる場面を見て、互いを思いやる気持ちが育っていると感じた。普段の保育の中でも友達の前を見て信じてあげているのが良い。 教師自身の評価が厳しいところもあるが、教師として保育経験や社会経験を積み重ねていくしかないのではないかと。 子育てや保護者同士の関わりで不安を感じる保護者がいるのが気になる。就学すると保護者同士関わる機会が減り、孤立する保護者もいるだろう。幼稚園の間に保護者同士話し合える場や関係づくりや自分の気持ちを出せる機会が必要である。地域との関係においても将来への仲間づくりの意識を高めていってほしい。 	<p>評価</p> <p>A</p>
---	--------------------